HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会誌学
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	社会誌学講義東洋大学社会学部
Issue Date	1964
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77369
Type	manuscript
File Information	N034_01S39.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

TRADE MARK

工業A30

Superior Note Book

MADE BY B B B NOTE CO LTD
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

社會誌學

社會学部

昭和三十九年

和一回講義（十月二十二日）

現代の足下の社会の現象が、我々の学問研究の出発点であり、W当日である。

明治二十九年秋の日本改造と二十九年の日本改造。

東京と西京、駿河と富士、世界と日本、日本と支那。

日本改造成る。

日本改造の中の現代

この変遷過程を眺めれば、我々現代の状態は過去と未来の中の現在

この変遷過程を眺めれば、我々現代の状態は過去と未来の中の現在

不可解である。この変遷を合理的に説明し得るは最適任者

語るのである。歴史は同じ命令のくり返しではない。

今日都市は、もはや農村ではない。

日本においても、負債なしの代表的社会制度

米なし革命現代の状態にあり、外にイタリアもあり一流国。

自分たちよりも下の者（外国人）

方法を学ぶ（外国人の一人は自分の仕事を奪う）

技術を習得（後釜）

学ぶ（外国人研修生の口を閉ざす）

ではない。身に解決は技術を

な。

私の社会貢献（2

セーリング競技

必ずや（大きな社会貢献）

私（皆さま）

皆さま。

家族は如何に変化しつゝあるか

農村は如何に変化しつゝあるか

都市は如何に変化しつゝあるか

国民教育は如何に変化しつゝあるか

第二回（十月二十二日）
民社党はいかに更生すべきか
日本の一流どころの話を
生産一世界市場への道を
清書一生活水準の向上、等かかげ、
求人難の時期がやってきました。戦は中ばの
事和建設の為にはじめて民のかたがたに活用
はかれ。
日本民主党なるものにとは何ぞや
今では話もない（聴衆から生活は楽しな
こいよの求人は大都市をはじめとして
北下愛工業的機関不振産業男も女も
老も若もその職場で物をせんとしつつ
交通路の急速電動やバス自動車に
急増
然し求人に答える能力ある求人には困難と
いうの明治以来の教育の如実、自由
の基礎の根幹民主党はどんな施策をもって
求人の能力がこれに活動とはどのようにして
は世界に通用する人間像はあるか
基礎つくり技術では御座いません
社会科学大
はたして、話題のカルテットと国民性のもの

平穏、学会等と町村合併
財政の国会同による影響減

口民的事運

（今の調子の場合、政権は口民党）

（政権は口民党）

（中央における）

（米ソの対立）

（口民党独裁の確立）

（米ソの対立）

（米ソの神になった本人が二千年の伝統）

（又幸運とよりの運）

（これは我々の）

（ソレマ）

（鎌倉武士の気風）

（あれが、乱舞の四郎の経営精一杯）

（陸軍が大きくなった）

（五、米作鎖国の百姓米の流来）

（道義おしおれはなし）

こんな事では日本の将来を考えたものは多くて改造
方。又世界の政治力の均衡も他に幸であった
のが米ソの対立がなかったらこんなに早く幸はまわって
来ないであろう。
政治の指導の下に産業の活動が盛ん
となり、政治と産業の協力の下に急速な
口民産業新国の確立を期すべきである。
迅速に徹底的な
銃剣の神になった本人が二千年の伝統
大和魂だけではまとまった口民の実力ではない
又幸運とよりの運でなければ本にはそんな大
きな幸運が歴史上あったためしはない。
これは我々の
一日の猶予も許さない一つの
二江戸は我の鎖
三元冠
四是の論なき中心に寄り切った口は素のお
あれが、乱舞の四郎の経営精一杯（実際史）
付録を式文化が来た（陸軍が大きくなった）
が平和の大むてあれ。
五、米作鎖国の百姓米の流来